

古代ゾーン推進事業について

文化財課

1. 趣旨

相原～永添～大幡地区では、古代社会の主要な遺跡が目に見えるかたちで残っています。中津市では、古代遺跡を体感できる町に住み、地域に誇りをもってもらえるよう、古代遺跡を体感できる整備活用を目指します。

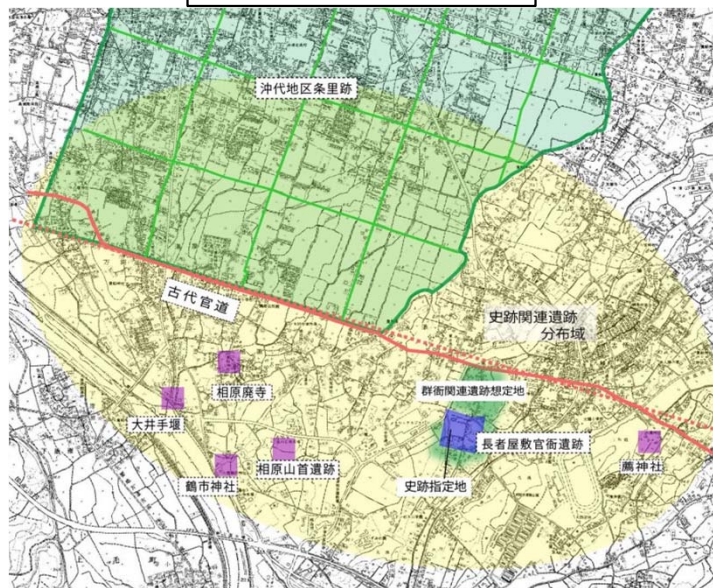
2. 27年度の事業内容と財源

(1) 市民とともに考える取り組み

古代ゾーンの各遺跡を巡り整備活用を考える取り組み（現地見学・ワークショップ）を遺跡ごとに行い、市民の参加意識を高めます。

（事業費：206千円）

古代ゾーンの対象エリア



(2) 長者屋敷官衙遺跡の発掘調査

将来、国史跡長者屋敷官衙遺跡内において確認調査を実施し、国史跡公園としての整備活用に役立てます。（事業費：2,479千円）

(3) 長者屋敷官衙遺跡の史跡整備

長者屋敷官衙遺跡は、古代ゾーンの核としての整備を行います。国史跡公園としての実施設計を行い、28年度からはじまる整備工事の準備をします。

追加指定となる土地の買い上げは国80%補助となるため、追加指定予定地の分筆を行い、追加指定の申請をします。指定地外の土地を買い上げます。

（事業費：42,376千円）



遺構確認調査を行い、調査結果を整備にいかす。

(4) 説明看板設置

古代ゾーンに遺跡説明看板を設置します。
(事業費：525千円)



薦神社三角池の堤が古代官道であることの説明板を設置。



長者屋敷官衙遺跡内に、整備計画説明板を設置。

(5) 条里シンポジウムの開催

条里のシンポジウムを開催します。27年2月14日に行ったシンポジウムは、まず価値を知ってもらうために実施しました。27年度は外部から専門家を招き、条里保全の具体的な方法について検討します。(事業費：807千円)

条里水田の保全方法、土水路維持の方法など、条里景観の守り方・活用の方法を検討する。



(6) 相原山首遺跡の修復

風の丘内にある県指定史跡相原山首遺跡の史跡公園において、古墳の遺構表示が劣化したため、修復工事を行います。
(事業費：4,317千円)

遺構表示をしているソイルセメントが劣化しているため、修復する。



古墳に上る階段の木が朽ちているため、修復する。



3. 県内の状況

国史跡を所有する市では、史跡整備（土地買い上げ・公園整備）を随時行っています。主な例は大分市の大友遺跡・日田市のガランドヤ遺跡・宇佐市の法鏡寺跡・国東市の安国寺集落遺跡・竹田市の岡城などです。

また、文化庁や県の指導で、史跡の整備とともに活用に力を入れています。